

展覧会スケジュール

2012年よりスタートした美術館のネットワーク「NIIGATAアートリンク」。県立美術館と新潟市立の美術館4館が手を取り合って美術館を活性化。館を超えたさまざまな取り組みを通して美術館めぐりがもっと楽しくなるヒントを提案していきます。

新潟のアートシーンを
もっと面白く。
もっと元気に。



このマークのある展覧会では新潟出身作家の作品を見ることができます。

新潟市美術館

新潟

8月29日(金)まで
改修工事のため休館

ほぼせんてん、

新潟

8月30日(土)～9月28日(日)

開館40周年を迎えた新潟市美術館のさまざまな場所を使い、美術館にあるものを1,000点目標に展示します。お馴染みの作品から、滅多に展示機会がないものまで、自由に多様なテーマから当館コレクションをご覧ください。



フェルナンレジェ《読書》
1984年(原画は1924年)新潟市美術館蔵

長坂コレクション

はじめましての西洋絵画

11月1日(土)～2026年1月12日(月・祝)

長野市在住の所蔵家・長坂 剛氏が長年にわたり「伝統的な絵画手法によって描かれた正統派のヨーロッパ絵画」を蒐集したコレクションより、17世紀のバロック美術と19世紀の近代絵画を中心に58点の油彩画を紹介いたします。



オノリオ・マリナーリ《聖チェチリア》制作年不詳

路傍小芸術

新潟

2026年1月24日(土)～3月22日(日)

長らく街の片隅にあって、多くの人に見つめられてきた、無名の人々による造形作品の数々を紹介いたします。小中学校などのセメント彫刻・銭湯の壁画・新潟地震を描いた児童画など。当館だけで開催される自主企画展です。



作者不詳《望みの光》
新潟市中央区・湊みどり広場内(湊小学校跡地)

新潟市新津美術館

新潟

new born 荒井良二

いつも しらないところへ
たびするきぶんだった

3月25日(火)～6月8日(日)

まるで旅をするような気分で、活動の幅を広げてきた絵本作家、荒井良二(1956-)。本展は、作家自身による会場構成のもと、絵画や絵本原画、新作の立体作品などをご紹介。荒井の作品世界に入り込むような、楽しい展示空間をご体感ください。



荒井良二
《new born 旅する名前のない家たちを
ぼくたちは古いバケツを持って追いかけ
凍く水を汲み出す》より
2023年 ©Arai Ryoji 撮影:池田晶紀

6月9日(月)から
2026年3月末(予定)まで
改修工事のため休館

休館中の様子や
最新の情報は、
Webサイトなどを
確認ください▶



#にいがた

春の絵本まつり SNS投稿キャンペーン

2025年春、新潟市美術館を除く3館で、絵本に関連する展覧会を開催します。会場では撮影した写真やグッズの写真、指定のハッシュタグをつけてポストした方の中から抽選で、展覧会グッズなどをプレゼント! 詳細は、各美術館のWebサイトをご確認ください。

【対象の展覧会】

- new born 荒井良二
いつも しらないところへ
たびするきぶんだった
(新潟市新津美術館)
- 津和野町立安野光雅美術館コレクション
安野先生のふしぎな学校
(新潟県立近代美術館)
- junaida展
「IMAGINARIUM」
(新潟県立万代島美術館)

【実施期間】

2025年3月25日(火)～
6月22日(日)

新潟県立万代島美術館

新潟

谷川俊太郎 絵本★百貨展

4月6日(日)まで

junaida展 「IMAGINARIUM」

4月19日(土)～6月22日(日)

「Michi」「の」『怪物園』(すべて福音館書店)など、近年出版した絵本がいずれも話題の画家、junaida(ジュナイダ)。本展はたゆまぬ冒険を続けるjunaida初の大規模個展です。400点超の作品により、空想世界の全貌をお楽しみください。



「IMAGINARIUM」
(2022)
©junaida

さくらももこ展

7月12日(土)～10月26日(日)

まんが家、エッセイスト、作詞家、脚本家といくつもの顔を持ち、新しいキャラクターやエッセイを次々と世に送り出した稀代のアーティスト、さくらももこ(1965-2018)。本展では約300点のカラー原画や直筆原稿の展示を通して、今なお輝き続けるさくらももこの魅力に迫ります。



©さくらももこ
©さくらプロダクション

田畑あきら子展

新潟

11月22日(土)～2026年1月12日(月・祝)

新潟県西蒲原郡巻町(現・新潟市西蒲区)出身の田畑あきら子(1940-1969)。本展では代表作とされる一連の油彩画とともに、200点を超える素描を展示し、田畑が描きとめた儚いイメージの世界を探索します。



田畑あきら子(作品)
1967-68年
国立国際美術館蔵

大カプコン展

—世界を魅了するゲームクリエイション

2026年3月14日(土)～6月21日(日) (予定)

1983年の創業から世界的ゲームソフトメーカーに成長した現在まで大阪に本社を置くカプコンは、数多くの人気タイトルを開発し、世界の人々を魅了してきました。本展では、開発者たちの企画書や原画、ポスター、体験型コンテンツ、最新技術など、ゲーム誕生の壮大なプロセスとそれに関わるクリエイターたちの想像力と実現力に迫り、日本が誇るゲーム文化を捉え直します。

新潟県立近代美術館

長岡

津和野町立安野光雅美術館コレクション

安野先生の ふしぎな学校

4月12日(土)～6月1日(日)

画家・安野光雅(1926-2020)が描いた独自の世界観をもつ絵本作品は、国際アンデルセン賞画家賞を受賞するなど国内外で高く評価されました。本展では、画家として独立する前の教員時代に着目し、多彩なジャンルの作品を学校の授業科目に見立てて紹介します。



《オカミとサギ|きつねがひろつていっつものがたり|いよ》1987年
©空想工房 画像提供:津和野町立安野光雅美術館

徳川十五代将軍展

～国宝・久能山東照宮の名宝～

6月27日(金)～8月24日(日)

静岡に位置する国宝・久能山東照宮は徳川家康を神として祀る神社です。本展では、ここに伝来している家康所用の甲冑をはじめ日常生活で使用した品々、歴代将軍が奉納した武器や書画を紹介します。特に、歴代15代将軍全ての甲冑の展示は見どころです。



《東照大権現像》
江戸時代初期
(17-18世紀)
久能山東照宮博物館蔵

「オバケ?」展

9月13日(土)～12月7日(日)

怖いオバケに可愛いオバケ。会いたくないけど会ってみたい。オバケは私たちの好奇心をくすぐる不思議な存在です。絵本、漫画、落語、アニメーション、音楽などでオバケに迫る体験型の展覧会。オバケを探索する「オバケ研究所」やオバケをテーマにした銭湯「オバケ湯」もオープンします。大人も子どももみんなで楽しい史上初のオバケ万博にぜひお越しください!



©Keiko Sena

描く人、安彦良和

2026年3月7日(土)～5月24日(日) (予定)

「機動戦士ガンダム」のキャラクターデザイナー兼アニメーションディレクターをつとめ、現在は漫画家としても活躍する安彦良和(1947-)の回顧展。デビュー当初から最新作の漫画作品まで、1,000点を超える貴重な作品、資料によって約50年の軌跡を紹介いたします。

新潟市新津美術館

new born 荒井良二

いつも しらないところへ たびするきぶんだった

3月25日(火)～6月8日(日)

頬を染め、やわらかな表情で前を見つめるこの子の名前は「マッテルモン」。植物のつぼみをモチーフにしています。マッテルモンは、何を見つめ、何を待っているのでしょうか？会場で、そのヒントを探してみてください。



荒井良二《マッテルモン(マケット)》2014年
大分ウォーターフロント研究会蔵 ©Arai Ryoji 撮影:池田晶紀

新潟市美術館

長坂コレクション はじめましての西洋絵画

11月1日(土)～2026年1月12日(月・祝)

うつろな目をして空のジョッキを口もとに運ぶ男。酒がないことに、文句のひとつやふたつ飛んでさうな雰囲気です。17世紀のオランダで描かれたものですが、どこか身近に感じられるオヤジ像ではないでしょうか。

ヤン・コシエルス《空のジョッキを持つ酒飲み》
制作年不詳



路傍小芸術

2026年1月24日(土)～3月22日(日)

1964年6月16日の新潟地震発生当時、先生に守られながら避難する小さな子供たちの群像。その表情はそれぞれ異なっています。新潟の奇想の彫刻家(と呼びたい)早川亜美による、復興記念のモニュメント。

早川亜美《みちびきの像》(部分) 1967年
新潟市中央区・新潟県民会館前



この顔に注目!

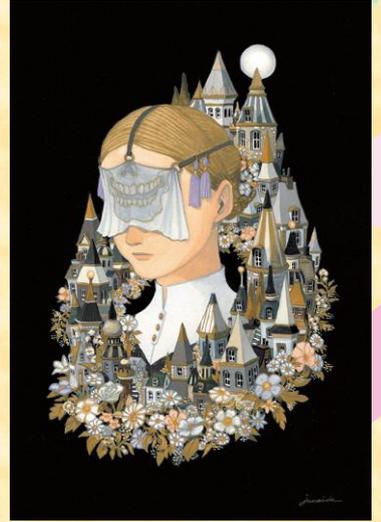
作品に表された顔には豊かな個性があふれています。今年度開催される4館の展覧会の中から、魅力的な顔を集めてみました。あなたはどの表情に惹かれますか？

新潟県立万代島美術館

Junaida展「IMAGINARIUM」

4月19日(土)～6月22日(日)

緻密な描写と美しい色彩により独自の世界を描き出す Junaida の作品は大人から子どもまで、多くの人に愛されています。明るく可愛い作品もあれば、闇をたたえた大人っぽい作品もあり、本展では様々な魅力に出会えます。



「UNDARKNESS」原画
(Hedgehog Books, 2021) ©Junaida

新潟県立近代美術館

徳川十五代将軍展 ～国宝・久能山東照宮の名宝～

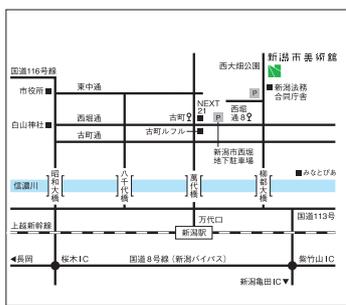
6月27日(金)～8月24日(日)

このちょっととぼけた顔のフクロウは、徳川幕府三代将軍である家光の手によるもの。その画技は狩野探幽の指導によるものだとか。濁筆部分に見られる荒く早い筆遣いには、豪放磊落な性格が見てとれます。展覧会では、国宝の刀剣や家康の茶道具も見られます。

徳川家光《枯木梟図》(部分)
江戸時代前期(17世紀)
久能山東照宮博物館蔵



各館で授乳室、おむつ交換台等の設置、ベビーカーの貸出を行っています。詳しくはお問合せください。



新潟市美術館
Niigata City Art Museum
8/30～9/28は9:30～18:00
10/15～3/31は9:30～17:00
(観覧券の販売は閉館30分前まで)
〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9
TEL 025-223-1622
<https://www.ncam.jp/>



新潟市新津美術館
10:00～17:00(観覧券の販売は16:30まで)
〒956-0846 新潟市秋葉区蒲ヶ沢109番地1
(花と遺跡のふるさと公園内・県立植物園となり)
TEL 0250-25-1300
<https://www.city.niigata.lg.jp/nam/>



新潟県立万代島美術館
The Niigata Bandaijima Art Museum
10:00～18:00(観覧券の販売は17:30まで)
〒950-0078 新潟市中央区万代島5-1
(朱鷺メッセ内万代島ビル5F)
TEL 025-290-6655
<https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>



新潟県立近代美術館
THE NIIGATA PREFECTURAL MUSEUM OF MODERN ART
9:00～17:00(観覧券の販売は16:30まで)
〒940-2083 長岡市千秋3丁目278-14
TEL 0258-28-4111
<https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>